

2026年02月

第102回

会社設立物語(02)

2月か。一番寒い時期だ。2月10日が1月支払分源泉所得税の納付期限、2月末が納付目的月1月分社会保険料の納付期限か。うちの会社が6月決算法人なら、2月末までに中間申告納付(法人税、消費税、法人事業税、法人住民税)の必要があるわけだ。

思えば、サラリーマン生活に大きな不満があるわけではなかった。嫌な事もあったが、統じて良い思い出だ。今にして思うと、毎月決まった給料が振り込まれ、その上、夏と冬に賞与が貰えるとは、恵まれていた。独立してからは、契約が無くなったり、入金が遅れたりするなど、リスクがある。

それでも独立したのは、会社の雰囲気の変化を感じ取ったからだ。独立の遠因はドブル崩壊かもしれない。ドブルが崩壊すると、日本的経営の三種の神器(終身雇用、年功序列、企業別労働組合)が否定される風潮になった。個人の特色よりも組織の論理の方が強くなった。髭を生やしていた先輩は髭を剃るよう会社から命じられた。

昔からダメな上司とダメな部下に対する悪口はあった。しかし、ダメながらもダメなりの居場所と役割がちゃんとあった。会社の雰囲気が、以前よりも息苦しくなった気がする。

江幡 淳